

海光町学園

小佐々中学校だより

第24号

令和6年1月10日

バージョンアップ! 小佐々中

※バージョンアップ…状況に応じて、さらに発展、進化、成長すること。

文責:校長 佐々木 則弘



2024年(令和6年)がスタートしました。



新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

今年の干支は「甲辰 きのとつ」。「甲」は、生命や物事の始まり、**成長**を意味します。「辰」は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が**成長**して活力が旺盛になる状態を表します。まさしく、「バージョンアップ」するにふさわしい年です。生徒、教職員すべてが「バージョンアップ」できるよう、皆で頑張っていきましょう。

保護者、地域の皆様におかれましては、今年も本校の教育活動にご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

～3学期始業式 校長講話より～

皆さん、改めまして、新年、明けましておめでとうございます。2024年を無事に迎え、こうして皆と一緒に無事に3学期の始業式を迎えることができることに、私は、今まで以上に大きな喜びと、幸せを感じます。皆さんも知っている通り、1月1日、能登半島を震度7の地震が襲い、8日現在、石川県内で亡くなられた方は168人、安否の分からない方も323人いらっしゃいます。その中には、君たちと同じ中学生も含まれています。また、命は助かっても、倒壊・津波・火災で多くの方が住む家を失いました。今私たちがこうしている同じ時間にも、十分な支援が届かないまま揺れが頻発する避難所で、不安な気持ちで過ごされています。ここで、亡くなられた方々への哀悼と、被災地の1日も早い復興を祈って、皆で一緒に黙とうをしたいと思います。～黙とう～

では話に戻ります。この能登半島地震を受け、私は東日本大震災があったときのある新聞の投書を思い出しました。次のような内容です。

貧しい国の人たちに「今、幸せですか?」と尋ねると「今日はご飯が食べられたから幸せです」と答える。日本で同じことを尋ねても「幸せです」と答える人は多くはない。きっと人は一度大きな幸せを知ると、それよりも小さな幸せを「幸せ」と考えられなくなるのだろう。しかし東日本大震災をきっかけに、今までの「当たり前」を「幸せ」だと改めて思うことができた。支えてくれる人がいる。雨風をしのげる家がある。ご飯が食べられる。物事を学ぶことができる。これらは、当り前のことではなく「幸せ」なことだ。私の住む地域では地震の影響はほとんどない。その中で私たちは大震災を忘れることなく、今ある「当り前のこと」に感謝しながら、一日一日を精一杯生きていく。「幸せですか」と聞かれ「幸せです」と笑顔で即答できる、そんな生き方をしたいと思います。

こういう投書でした。幸せかどうかは、当り前のことに感謝の心が持てるかどうかであると、投書された方は言っています。私もそのとおりだと思います。「ありがとう」の反対の言葉はなんだと思いますか。「当たり前」です。私たちの周りは、あまりにも当たり前になってしまっていて、有り難さを感じないことに溢れています。でも、そのどれもが当り前のことではありません。

さて、いよいよ3学期が始まりました。この3学期は土日祝日を除くと3年生は46日間、1・2年生は51日間と大変短い学期になります。よく1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われます。3学期の月日が過ぎる早さを表した言葉です。特に3年生にとっては、中学校生活最後の46日間 となります。今の仲間と過ごす、本当に大切な1日1日になります。勉強ができること、仲間がいること、帰る家があること、家族がいること、ご飯が食べられること、こうしたことのどれもが、当り前のことではありません。この3学期は「感謝の3学期」を合い言葉に、当り前の事に感謝するとともに、2学期終業式で話した「自主性」「主体性」を意識しながら1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。